

FICTION

NON-FICTION

文学
社会・人文科学

フランス書籍セレクション



INSTITUT
FRANÇAIS
アンスティチュ・フランセ日本
JAPON

Tokyo

06・13-14

2 0 1 6

作品目録製作

BIEF – Bureau International
de l'Édition Française
115, boulevard Saint-Germain
75006 Paris – France
T +33 (0)1 44 41 13 10
info@bief.org
www.bief.org

**この目録の発行は国立書籍セン
ターの援助を受けています**

Cette publication
bénéficie de l'appui
du Centre National du Livre



発行人

Jean-Guy Boin



FICTION



NON-FICTION

文学
社会・人文科学

フランス書籍セレクション

ALBIN MICHEL

1900年に設立されたアルバン・ミッシェルは、今なお独立経営を続ける稀なフランスの出版社です。今日にいたるまで作品目録には六百冊の書名が連なり、年間に五百冊の新刊を発行。本社は文学、エッセイ・ドキュメント、社会人文科学、心理学、精神世界、また芸術関連の書籍を出版しています。アルバン・ミッシェル社は、駆け出し作家にもプロ作家にも、また国際的に著名な外国人作家にも信頼を置いています。



La femme au miroir

鏡を持つ女

Eric-Emmanuel Schmitt

■ 小説

2011 ■ 464 p. ■ 978-2-226-22986-1 ■ 22.30€

ルネッサンス時代のブルージュに生きたアン、世紀初めの帝国時代のウィーンに生きたハンナ、そして今日のロサンジェルスに生きるアニー・リー。三つの運命、三つの特異な冒険、三人の女達は限りなく似通っている。時代が映し出す自己イメージや他との違和感をそれぞれが逃れようとする意志が彼女達を接近させる。

いったい三人のうち誰が、戦いの末に己の自由と真実を見いだすのか？ 思いがけぬ仕方で、そして一連の偶然によって、女達は時代を超えて同じ小説のヒロインとなっていく。

40カ国語に翻訳され脚色されている劇作家、小説家、短編作家、エッセイスト、シネアストであるエリック＝エマニュエル・シュミットの作品はすでに世界中で15万部売られた。



Le monde est clos et le désir infini

閉ざされた世界と果てしない欲望

Daniel Cohen

■ エッセイ・ドキュメント

2015 ■ 224 p. ■ 978-2-226-31674-5 ■ 17.90€

経済成長は、現代社会の宗教であり限りない進歩の約束だ。無いものねだりという人間生活のありふれた悲劇に解決法を与えてくれる。何たることか、少なくとも西洋では経済成長はもはや断続的になってしまった・・・ 景気急上昇は株式相場の大暴落に引き継がれ、バブル経済は経済危機へと続く。スケープゴート探しをする現代社会は、火傷しかねない厄介な問題を避けている。つまり、もし終わりなき成長の約束が無意味になったら、この社会はどうなってしまうのか？ 他に満足を見いだせるのか、あるいは絶望と暴力に陥るのか？

著名な経済学者であるダニエル・コーエンは、パリ経済学校の副学長かつ創立メンバーであり、多数のベストセラーを出版した。

Le passager

■
Albin Michel

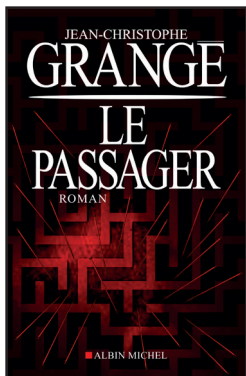
**Le crime du Comte Neville****ヌヴィル伯爵の殺人**

Amélie Nothomb

■ 小説

2015 ■ 144 p. ■ 978-2-226-31809-1 ■ 15.00€

「ぞっとすることは必ずしも軽蔑に値しない」 - アメリー・ノートン
 アメリー・ノートンは1967年の神戸生まれで1992年の初小説『殺人者の健康法』からすでに特異な作家として認められている。1999年には『恐れ慄いて』でフランスアカデミー大賞を受賞。40カ国語に翻訳された『ヌヴィル伯爵の殺人』は彼女の24冊目の小説である。4冊目の小説である。

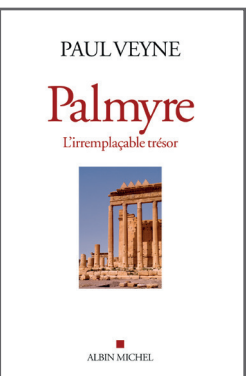
**Le Passager****通り去る男**

Jean-Christophe Grangé

■ ミステリー小説

2011 ■ 752 p ■ 978-2-226-22132-2 ■ 25.25€

マチアス・フレールは「精神的失踪」をする。ストレスの影響で、ある通りの角を曲がった後に記憶を失う。そして我に返った時には別人になっている。知らずと新たな自分、新たな過去、新たな運命・・・を作り上げていた。その状況を理解した時、彼はボルドー地方で精神科医をしている。自分が何者であるのか知ろうと先立つ様々な身分を遡って行きながら、最初の自分を発見し、また幻覚を誘うような真実を暴こうとする。ジャン＝クリストフ・グランジェは定期的に映画化されるミステリー小説の作家である。この分野の大家達と競う実力のある唯一のフランス人作家であり、彼の作品は約30カ国に翻訳され、世界で1千万部が売られている。

**Palmyre, l'irremplaçable trésor****パルミラ、かけがえのない宝**

Paul Veyne

■ 社会人文科学

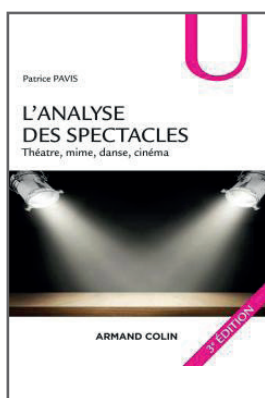
2015 ■ 144 p. ■ 978-2-226-31511-3 ■ 14.50€

ユネスコの世界遺産に指定された「砂漠のヴェニス」と呼ばれるパルミラがテロ組織ダークイッシュに破壊されつつある今日、立ち入り禁止の都市の廃墟を巡るのにポール・ヴェインに優れたガイドがいるだろうか？ シリアの中心に位置する古代の首都パルミラはソロモン王に築かれたという。ティベリウス帝時代にローマ帝国の属州となったこの重要都市は、紀元後1世紀から3世紀の間に近東最大の商業威力となった。ギリシア・ローマ建築と地方建築が結びついた壮大な建造物は、かつて古代世界の最重要建築の一つであったし、今日もなおそうである。コレージュ・ド・フランスの名誉教授ポール・ヴェインは、優れた古代ローマ歴史学者の一人である。

1900 設立年
6 000 目録の書名数
5 0 0 年間出版の書名数

ARMAND COLIN

1870年に設立されたアルマン・コランは、文学・歴史・社会人文科学の分野におけるフランス語圏大学出版局の主要名である。目録に含まれる書名は2000冊を超え、学術雑誌は17種、また著名執筆者には特にフェルナン・ブロデル、マルク・ブロックまたパトリス・パヴィがいる。アルマン・コランは現代の主要問題に関する教授法、学識、そして考察を組み合わせた書物を出版。また叢書『U』『Cursus』『128』は、歴史学・地理学・文学・社会学・心理学・芸術といった分野の象徴である。



L'analyse des spectacles

映画・演劇分析

Patrice Pavis

■ 演劇・マイム・ダンス・映画

2016 ■ 3ème édition ■ 448 p. ■ 978-2-200-61402-7 ■ 32 €

絶対に失くすべきでなかった自信、つまり自分自身の視線への信頼を観客に与え直すこと、これこそが演劇巡りをする本書の野心、そして演劇を考える諸方法だ。語り劇、マイム、ダンス、ダンス劇、パフォーマンス、映画や視聴覚メディアはどのように分析するのか、特にそれらが組み合わせられたハイブリッドな作品の場合はどう理解したらいいのか？ 役者の演技と声、音楽、空間、時間、衣装、照明等といった構成要素はいかに区別すべきか？ 分析と解釈は、見る側の心理的、社会的、人類学的、異文化間的な視点にはっきりと位置している。本書は、観客にこれまでの演劇の読解方法を見直すように促す。ポスト・モダンの作品またポスト演劇制作をより深く評価するために、また演劇の創作法あるいは鑑賞法の考察のために演劇研究とパフォーマンス研究学が結び合わされる。



Cannes 1939, le festival qui n'a pas eu lieu

カンヌ1939年、幻の映画祭

Olivier Loubes

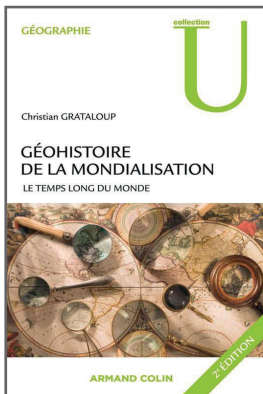
■ 歴史

2016 ■ 288 p. ■ 978-2-200-61355-6 ■ 22 €

4月1日に予定されていた第一回カンヌ映画祭は開催されなかった。戦争開始は、世界最大級になりつつあった映画祭に7年間の省察を強いた。しかし、カンヌ39は確かに存在したのだ！準備は万全だった。映画は、中でも『オズの魔法使い』『スタンレーとリヴィングストーン』がセレクトされ、ノーマ・シアラー、ケーリー・グラント、ミシェル・モルガンやピエール・フレネーといったスター達はすでにそこにいた、または駆けつけ中だった。名誉議長にレイ・リュミエールが指名され、映画祭議長は他ならぬ『映画大臣』のジャン・ゼイ。彼こそが、明らかに独裁主義になったヴェネツィア国際映画祭に対抗するために、アメリカ映画撮影所の支援を得てカンヌ映画祭を創立しようとしたのだ。この知られざる冒険の未公開の記録によって、著者は『虹の彼方へ』・・・消え去った出来事の歴史を明らかにしてくれる。



ARMAND COLIN



Géohistoire de la mondialisation.

Le temps long du monde

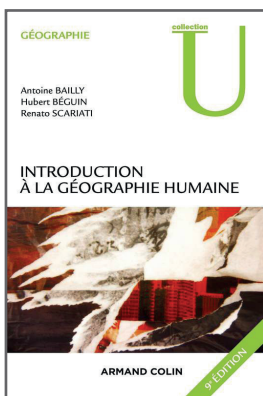
国際化の歴史地理学 世界の長い季節

Christian Grataloup

■ 地理

2015 ■ 3ème édition ■ 344 p. ■ 978-2-200-60294-9 ■ 32 €

今やグローバル史は不可避であり、世界の多様性、地理、人類の統一性についての長期的な考察がその中でなされるべきだ。特に歴史を世界的規模で捉える時、「いつ」「どこで」は不可分の質問、つまり地理歴史学の質問となる。中国が台頭し、イスラム教国がもう一つの国際化として夢描かれ、ヨーロッパの役割が縮小しているこの時、現代世界を起源からの長い時間の中に位置づける必要がある。まだ長く続くであろうヨーロッパの痕跡には、今日驚くべきものがある。ヨーロッパは、何故今日の国際化の元になったのか？ またどういった何十億万年来の活力を存続させたのか？ どうして21世紀の初めになるまで中国やインドは、じきに他の国々もが、世界規模で台頭してこなかったのか？



Introduction à la géographie humaine

人文地理学入門

Antoine Bailly, Hubert Béguin, Renato Scariati

■ 地理

2016 ■ 240 p. ■ 978-2-200-61155-2 ■ 25 €

この概論書は人文地理学の基礎入門書である。大学生への古典地理学と新地理学の手引きとして、この分野の歴史、思考体系、問題点、また学術的アプローチを一般用語で説明する。具体性を考慮し、概念や理論を農村、工業、都市社会に適用するが、それは現代社会の責任としてなされている。社会経済科学の内部で大きな変貌を遂げつつある一分野の発展の証として、この新版には人文地理学の新流の学術的貢献が盛り込まれている。



Libres ensemble. L'individualisme dans la vie commune

みんなが自由 共同生活の個人主義

François de Singly

■ 社会

2016 ■ 320 p. ■ 978-2-200-61403-4 ■ 24 €

かつてないほど共同生活の中心機能の一つ、お互いへの尊重を学ぶことの必要性が叫ばれている。共同生活が束縛という形で個人の幸福を妨げるとすれば、個人主義は、各々が自己に閉じこもるという社会の分散化に至る可能性をもつ。だから自分自身でいることと共に生きることとの間、また個人と集団の間にある緊張状態を解くことが肝要なのだ。国家という屋根の下での共生が危機にある今、初版発行から15年になる『みんなが自由』は今なおいっそう現代的意義をもつ。どうしたら、共に生きることと個人の違いを尊重するという二つの要求を両立できるのか？

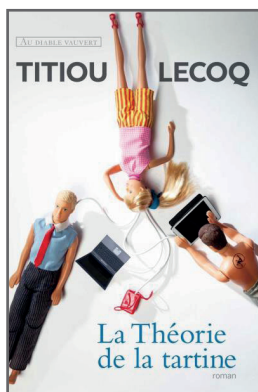
1870 設立年

2000 目録の書名数

150 年間出版の書名数

AU DIABLE VAUVERT

ポップで都会的な独立出版社だが、湿原と緩やかな斜面の間にあるカマルグ地方(ガール県のヴォヴェール域)に拠を据える。2000年にマリオン・マゾリックが設立したオ・ディアール・ヴォヴェールは15年間で350書名を出版し8百万部以上を売り上げた。主な分野はフランス及び外国文学、若者向け書物だが、また詩歌、文化史、生態環境や国土にも関心を寄せる。アイエルダール、ピエール・ボルダージュ、パオロ・バチガルピ、ジュリアン・ブラン＝グラ、ポピー・Z. ブライト、ダグラス・クープランド、ジャン＝ポール・ディディエロラン、ニール・ゲイマン、トマス・ギュンツィッグ、ジョン・キング、ティツォ・ルコック、ダン・オーブリアン、オッソモ・プッチーノ、ニコラス・レイ、レジス・ド・サ＝モレイラ、ダビッド・フォスター・ワラス、アーヴィン・ウェルシュなどの著作を出版するル・ディアールは、ポップカルチャーに養われ活気がありレアリストで世界に浸透性を持つ今日の文学を好む。現代の多様な感化力から生まれた出版社。



La théorie de la tartine バタージャムトーストの理論

Titiou Lecoq

■ 小説

2015 ■ 448 p. ■ 978-2-8462-6932-2 ■ 22€

2006年、前の彼氏がネット上にのせたセックスビデオを見つけた時、マリアンヌを助けたのは未熟なハッカーとインターネットは世の中を改善すると信じる夢想家ジャーリストだけだった。青春時代の動揺(子供、仕事、恋愛)を経た10年後、それら元ブログ魔女子大生、若きハッカー、理想主義者の新聞記者はどうなったのか? インターネットは全てをひっくり返してしまっていた・・・



Le liseur du 6h27 6時27分の朗読家

Jean-Paul Didierlaurent

■ 小説

2014 ■ 224 p. ■ 978-2-8462-6801-1 ■ 15€

控えめな従業員のギラン・ヴィニョルは潰し係として売れ残り書物の恐るべきクラッシャーZestor500を操作している。陰気な生活を送る彼だが、毎朝出勤で乗る6時27分の首都圏高速電車の乗客達に、前日に機械の鉄の歯を逃れた数ページを朗読する。風変わりな人物達の魔法にかかり変化するありふれた環境で起こる、温かく詩情溢れる現代の美しい物語。稀な一冊である。





Le reste de leur vie

残りの人生

Jean-Paul Didierlaurent

■ 小説

2016 ■ 288 p. ■ 979-1-0307-0059-6 ■ 17€

マネルは在宅介護者で、生きた人間の世話をするが、アンブロワーズは死体化粧士で、屍体の見栄えを良くするのが仕事。偶然ではない偶然の成り行きで二人が出会ったのは、すでに死人同然の生きている年若いサミュエルのおかげだ。ある地方の町から他の町へと、霊柩車に乗っての不気味で愉快的道中が、周知の致命的結末を覆してくれるようなありそうもない一変を求めて開始する。高齢者同士の親密さ、老人ホーム、老い、不治の病、朽ちる身体、死、屍体安置所・・・我々の人生の中心にあるこうした深刻な要素からジャン＝ポール・ディディエロランが繰り広げる、楽観的で驚くべき再生力に満ちた現代の物語。生きている人間を愛する屍体化粧士アンブロワーズの姿そのままの生への賛歌。



Les enfants qui mentent n'iront pas au paradis

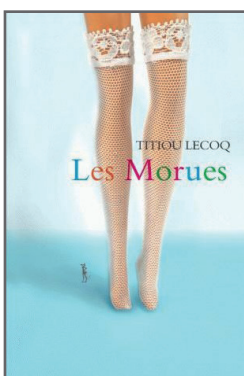
嘘つく子供は天国に行けない

Nicolas Rey

■ 小説

2016 ■ 162 p. ■ 978-2-8462-6967-4 ■ 14,5€

愛と人生に疲れ果てた不安定な四十代の作家ガブリエルは、息子の教師で国民党員のカトリーヌに恋をする。幻滅に陥ったロマンチックな男のこれまでにない今日的な描写にはニコラ・レイの魅力と突飛さが溢れる。



Les morues

娼婦たち

Titou Lecoq

■ 小説

2011 ■ 472 p. ■ 978-2-8462-6347-4 ■ 22€

娼婦たち、つまり女三人と男一人、仕事と愛の破廉恥な生活を送る三十代のフェミニスト達の物語。カート・コベインへの賛辞に始まる本書は推理小説へと続き、次に政治ジャーナリズムのスリラー小説として読者を不意打ちする、それから公共企業の民営化の内情を暴きだし、最後にインターネット時代のフランスでいかに愛し合い、求めあうのかを問う小説として完結する。一つの時代、つまり我々の時代の小説である。

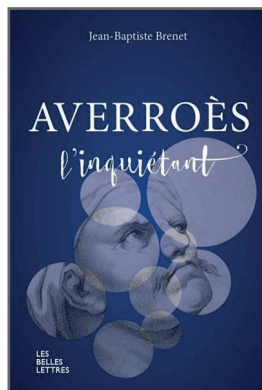
2000 設立年

350 目録の書名数

020 年間出版の書名数

LES BELLES LETTRES

レ・ベル・レットル出版会社はルネッサンス人文主義の伝統を継承し、社会の知識向上の指標となった分野の著作出版をするという揺るぎない意志に秀でる。唯一の源泉である原文と批評研究を読者に理解しやすく提供する。あらゆる関心が交わるその源泉分野とは、ローマと古代ローマ、ギリシャとヘレニズム、神話、哲学、文献学、科学、歴史、詩ならびに演劇である。フランス大学叢書または「叢書ボデ」(800巻以上が入手可能)は、フランス語新訳、序章、注釈、批評考証資料が付き、六世紀半ばまでのあらゆるギリシャ語及びラテン語原典が集められている。同様の厳格な出版原則に従って、レ・ベル・レットルは他にも2カ国語叢書の出版を行い、文学一般に関心を寄せている。



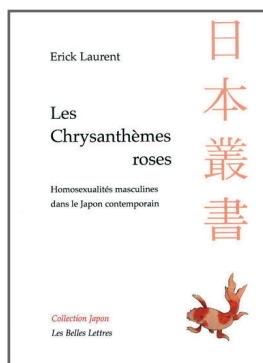
Averroès l'inquiétant 気がかりな哲学者、アベロエス

Jean-Baptiste Brenet

■ 哲学

2015 ■ 160 p. ■ 978-2-2514-4533-5 ■ 19 €

アベロエスは悪名高い。知性は個体とは分離して生物種全体にただ一つだ、という尋常でない主張をした人間が彼だ。その結果はいかに? 「我は考える」の命題の否定、つまり合理性の崩壊だ。500年間、ヨーロッパは彼の主張に眉をひそめ続けた。この魅了と排斥の混ざった歴史をいかに理解するか? 最初から否認されたアベロイズムは絶えず出現する。フロイトにならって、本書は一つの回答を提案する。アベロエス、別名 Abu al-Walid Muhammad ibn Ahmad ibn Rusd はラタン性を混乱させにやってきた「見慣れた不気味なもの」の原型である。



Les Chrysanthèmes roses. Homosexualités masculines dans le Japon contemporain

桃色の菊 現代日本における男性同性愛

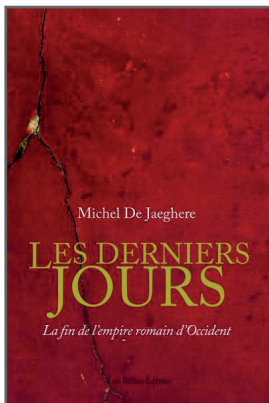
Erick Laurent

■ エッセイ

2011 ■ 242 p. ■ 978-2-2517-2212-2 ■ 29.50 €

『桃色の菊』はフィールドワークに基づく現代日本における男性同性愛についての最初的人类学的分析であり、日本学の通念からは明らかに離れた斬新なビジョンを提示している。





Les Derniers Jours.

La fin de l'empire romain d'Occident

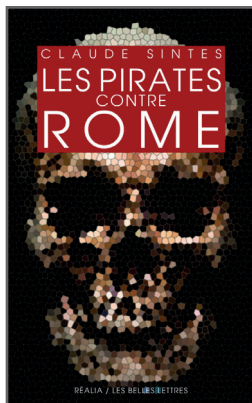
終わりの日々 西洋ローマ帝国の終末

Michel De Jaeghere

■ 歴史 - 後期古代ローマ

2014 ■ 658 p. ■ 978-2-2514-4501-4 ■ 26.90€

惨事と熱狂と急変に満ちた物語の進行につれて、作家は紀元後376年のゴート族の侵入とその100年後のロムルス・アウグストゥルスの退位までの決定的な一世紀を彷彿とさせる。後期古代ローマ社会と制度のあり方、また当時帝国の入り口に押し寄せていた異民族達の様子を大まかに描きながら、著者はローマ世界の内部におけるゲルマン民族の潜在的台頭を、ローマ権威者達を無力にした政治的、経済的、社会的状況も軍事的歴史をも見逃すことなく時間をかけて分析する。



Les pirates contre Rome

ローマ帝国に敵対する海賊

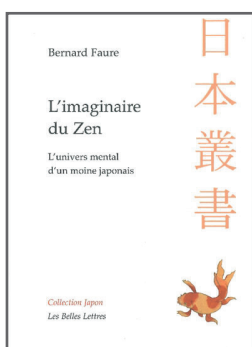
Claude Sintès

■ 歴史 - 古代ローマ

2016 ■ 240 p. ■ 978-2-2513-3844-6 ■ 23 €

この作品は古代の海賊行為を「内側から」理解する鍵を与えてくれる。なぜ人は海賊になるのか？ その戦略と策略はいかなるものだったか？ どんな船を使っていたのか？ どのように獲得物を選んでいったのか？ それを他の海賊達といかに分け合っていたのか？ またある海賊に攻撃されたら自己防衛できたのか？

陸地では常に太刀打ちできない強さをもっていたローマ兵も、海上では、掴みどころなくどんな条約にも服従せず、何よりも国民に憎まれていたこの敵の前では困難を極めた。ポンペイウスだけが当時慣習とされた十字架刑を選ぶことなしに根絶に成功する。この将軍は、定住する財力を海賊達に与えるという寛大な賢さを持っていた。



L'imaginaire du Zen

禅宗の想像世界

Bernard Faure

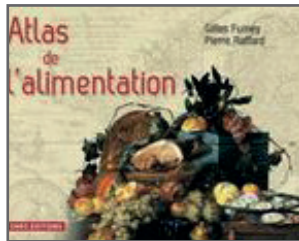
■ 研究書

2011 ■ 240 p. ■ 978-2-2517-2209-2 ■ 25.40 €

禅仏教の歴史は比較的知られていない。だが日本の禅宗の開祖の一人である瑩山紹瑾(1278~1325年/文永5~正中2年)の例が示すように、実際はずっと複雑である。瑩山は、宇宙規模の力で構築された、想像上の生き物や地方土着の神々に満ちた神秘的だが現実的な世界に生きていた。

著者はこの世界を、瑩山と禅宗の純化されたイデオロギーとの間にあった共生かつ対立した関係を強調することで明らかにしようとする。「歴史人類学」と宗教史に基づいた著者のアプローチは、禅宗、仏教、また日本の宗教の通常解釈の再検討に貢献している。

CNRS出版は、研究所であれ、大学であれ、また中核的研究拠点(センター・オブ・エクセレンス)であれ、フランスとヨーロッパの最も優秀な研究を出版している。知的クラスターへのこの重要な使命は、大衆に先端の知識を伝えるというもう一つの使命と決して対立しない。写真アルバム、資料、エッセイ、概説、また叢書や国際雑誌は、明日の古典となる革新的で要求の高い蔵書作りに貢献している。従って学識と公開、評価と討議の間にある本社の広い活動領域は、現代知性の全範囲に及んでいる。



Atlas de l'alimentation

食事の図鑑

Sous la direction Gilles Fumey et Pierre Raffard

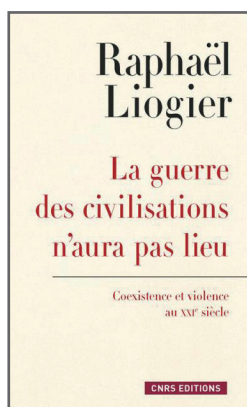
■ 歴史

2016 ■ 290 p ■ 978-2-2710-8141-4 ■ 25 €

食事とは単なる生物学的必要ではない。それは高度に文化的な行為である。今日もなお、食事作法や食べ方は世界の片隅から他の隅にいたるまで異なっている。我々の食物は、食べ方とその作法と同様に数世紀を経て変化した。

食物と文化的慣習の歴史は、気候、文化、交流そして人間の歴史と重なる。

200のメニューと挿絵が満載されたこの300ページの図鑑は五部に構成されている。



L'imaginé, l'imaginaire et le symbolique

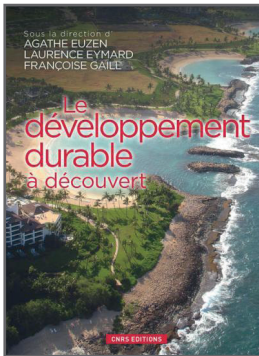
想像物 想像界 象徴体系

Maurice Godelier

■ 社会学 - 民族学 - 人類学

2015 ■ 286 p. ■ 978-2-2710-8082-0 ■ 19 €

架空のこと全てが想像されるとしても、想像されるもの全てが架空ではない。なぜなら想像することで、人間は不可能を可能にできるからだ。本書は社会科学の戦略の核心に読者を引き込む。それは想像界、象徴体系の性質と役割について自問することが、社会の基本的構成要素とは何か、また我々の社会的、私的アイデンティティーの大半を常に形成している特徴とは何か、つまり人間特有の存在様式の本質的特徴とは何かを説明することに等しいからだ。



La Guerre des civilisations, n'aura pas lieu.

Coexistence et violence au XXI^e siècle

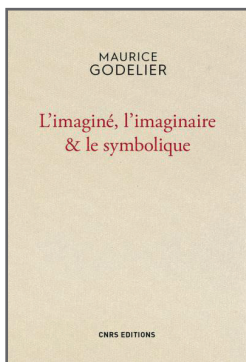
文明間の戦いは起こらない 21世紀における共存と暴力

Raphaël Liogier

■ 哲学 - 思想史

2016 ■ 240 p. ■ 978-2-2710-7998-5 ■ 19 €

「文明間の衝突」の概念は、地政学、宗教、また国家アイデンティティを語る時の常套句になった。だがラファエル・リオジエは、それが地球規模の交流の増大から生まれたグローバル文明の現実に直面した幻想に過ぎないこと我々に示す。技術の利用、食事の仕方、また大学修学過程は画一化された。今後は映像、音楽、情動が地球を駆け巡る。偏見と闘うための、そして我々を取り巻く世界をより深く理解するための強烈なエッセイ。



Le Développement durable à découvert

赤字の持続的開発

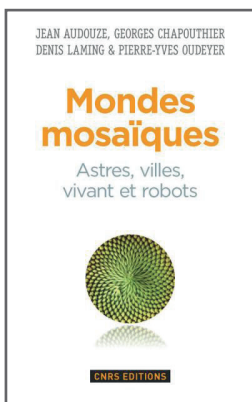
Sous la direction d'Agathe Euzen, Laurence Eymard, Françoise Gaill

■ 社会学

2013 ■ 364 p. ■ 978-2-2710-7896-4 ■ 39 €

リオでの第一回会議の20年後、我々の社会を持続的開発へと導く提案はどうなったのか？ ある国々で採用され他の国々では農業経営として用いられた持続的開発の概念は、多くの場合意味がない。ところが、人間の活動が自然資源、人の健康、また環境に及ぼす指数関数的な影響は、この概念を正確に説明することを余儀なくする。今日、持続可能な開発とは何か？ 資源の使用権とその行使はいかなる事態にあるのか？

また水、気候、土、生態多様性の分野においてはどうなっているのか？ 公平で支持できる21世紀の社会を建設するための参考図書。



Mondes mosaïques, astres, villes, vivant et robots

モザイク状の世界 天体 都市 生命とロボット

Jean Audouze, Georges Chapouthier, Denis Laming, Pierre-Yves Oudeyer

■ 生物学 - 地球科学

2015 ■ 216 p. ■ 978-2-2710-8055-4 ■ 23 €

天体、都市、生命、ロボット。これらは見たところ互いに全く異なる四つの研究対象だ。しかし、類似点は多い。とりわけ四つとも、モザイク状という同様の構成をもつ。教訓豊かで問題提起と議論を醸し出すにふさわしい、一見するとお互いに異なる四つの専門分野同士の対話である。

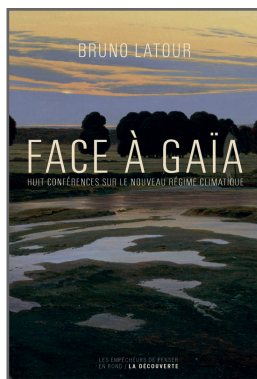
1986 設立年

2520 目録の書名数

100 年間出版の書名数

LA DÉCOUVERTE

1983年、ラ・デクベルト出版はフランソワ・マスペロ出版（1959年設立）を引き継いだ。年ごとにラ・デクベルトは中規模の独立出版社としての地位を確立し、特に社会人文科学の分野で社会問題を取り上げたエッセイ、国際問題と経済に関しての分かりやすい作品を紹介。理解するための本、行動に移すための本の出版は、複雑でせわしく、情報と映像で飽和した世界において書物は重要な位置を占めるという当社の確信に根ざしている。現代の不正事件、不平等、暴力に対して効果的に戦うことを目的とした自己形成であろうと情報収集であろうと、研究者、現場のジャーナリストや当事者の思索また研究を把握することはこれまでになく不可欠である。



Face à Gaïa. Huit conférences sur le nouveau régime climatique

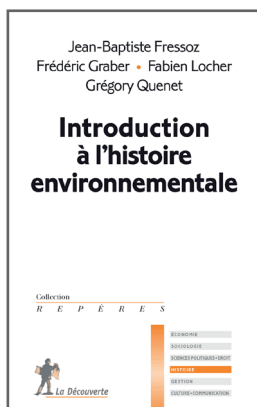
女神ガイアに直面して 新しい気候制度についての八講義

Bruno Latour

■ 哲学

2015 ■ 400 p. ■ 978-2-3592-5108-1 ■ 23 €

人類が及ぼした思いがけない影響によって、これまで自然と呼んできたものは数世紀来の人の生活環境を離れて舞台上の前面に上がった。人間が不安定にしたもの – 空気、大洋、氷河、気候、土壌 – は全て人間と相互作用関係にある。ガイアとは、我々がこの地から追放してしまったものが大地に回帰する時の名だ。我々は、ガイアと向き合う準備をする民として政治的に自己定義するこの陸の住民である。世界中で著書が翻訳されている哲学者、科学社会学者のブリュノー・ラトゥールによる素晴らしいエッセイ。



Introduction à l'histoire environnementale

環境史入門

Jean-Baptiste FRESSOZ, Frédéric GRABER, Fabien LOCHER, Grégory QUENET

■ 歴史

2014 ■ 140 p. ■ 978-2-7071-6575-6 ■ 10 €

本書は環境史の中心となる諸テーマを取り扱う。例えば自然の占有と技術管理だが、その裏側にあるのは自然環境の劣化と公害の歴史だ。あるいは気候と社会の相互作用だが、具体的にいうと植民地資源の採掘の結果、もっと一般的にいうと環境紛争の衝撃にいたる世界規模の富と権力の不均衡の影響である。分析の対象は、西欧列強国の地球植民化運動（十五世紀–二十世紀）と同じく決定的な歴史現象の中心にある社会環境保護推進力、冷たい戦争、また工業革命である。環境史は現代の挑戦にも長い現代社会史にも新たな視点を提示する。これらの指標が初めて環境史の統括的かつ体系的パノラマを作り上げる。





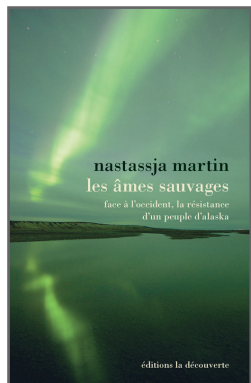
Le maniement des hommes.
Essai sur la rationalité managériale
人事管理 経営合理性についてのエッセイ

Thibault LE TEXIER

■ マネージメントの社会学

2016 ■ 288 p. ■ 978-2-7071-8657-7 ■ 21 €

我々の周囲を見まわそう。この世界は機械と組織と管理者の機能本位の連続体以外の何に似ているというのだろうか？ 一世紀前から管理は密かに至る所に忍び込んだ。こうして今日、確かに企業とサラリーマンは経営管理されているが、また病院、学校、子供、自然、感情、欲望等も同様に扱われる。昨日まで工場作業部に任せられていた経営管理合理性は、現代社会の常識になった。見事に資料で裏付けられた本書はマネージメントの政治哲学を提案する。



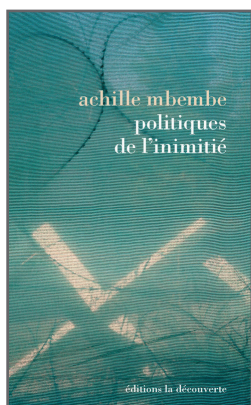
Les âmes sauvages. Un peuple d'Alaska face à l'Occident
野生の魂 西洋に向き合ったアラスカの民

Nastassja MARTIN

■ 人類学

2016 ■ 316 p. ■ 978-2-7071-8957-8 ■ 22 €

とりわけユニークな本書は、北東アラスカ、アタパスカン族に属する狩猟採取社会を形成するグウィッチン民族のもとで行った2年の実施調査から生まれた。本書は、グウィッチン族（「小さな人々」）が西洋と西洋危機に対して自らを守り、再び自らの社会を作りあげ、また何か威厳というものを断片から再構成する数限りない方法に我々を招き入れる。鋭くテンポの速い文体をもつ本書の美しさ、そこから湧く感動は、2年間、現地で起こることや感じること、また理解できることとそうでないことに絶えず注意を払い続けた作家の驚くべき現代性から生みだされている。



Politiques de l'inimitié
友好の政治

Achille Mbembe

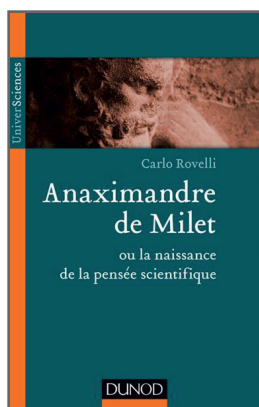
■ 哲学

2016 ■ 184 p. ■ 978-2-7071-8818-2 ■ 16 €

このエッセイは世界規模で広がり続ける特殊な関係を探求する。つまり友好関係だ。フランツ・ファノンの作品に部分的に基づきながら、作者は20世紀の非植民地化闘争の足跡を追いつつ、一 征服と占領、また圧政と反蜂起の形で行われた 一 戦争がどのようにして現代の秘跡になったかを説明する。

ホットで現代性に秀でたこのエッセイで、アシーユ・ムベンベは、暴力と法の関係、規範と例外の関係、また戦争政体、安全政体ならびに自由政体の間の関係について今後思考していくための新たな表現を問う。それゆえに本書はヒューマニズムを超越して、人類のための政治の土台を据えている。

紙版書籍から電子版までを扱うデュノッド出版者は、2世紀以上にわたって、何世代もの大学生や専門家の養成や知識習得の必要に成果を持って答えてきました。今日、デュノッドが重視する分野は科学技術（デュノッド、エディシアンズ、ETSF）、情報科学（デュノッド、マイクロソフト・プレス）、経済学、経営マネージメント（デュノッド）、心理学、個人発育（デュノッド、アンテレディション）そして社会医学です。



Anaximandre de Milet ou la naissance de la pensée scientifique

アナクシマンドロス、あるいは科学的思考の誕生

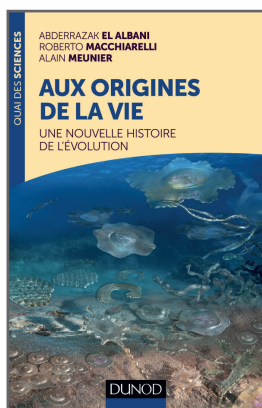
Carlo Rovelli

■ 科学

2015 ■ 196 p. ■ 978-2-1007-1676-0 ■ 19,50 €

古代のギリシャ人はすでに地球を空間に浮かんだ小石と捉えていた。彼らはどうやって地球が空間に「浮かんでいる」ことを、また空は我々の足の裏側にも続いていることを発見したのか？ 科学の偉大な一歩を最初に踏み出した男はアナクシマンドロスだ。彼は26世紀前に現在のトルコの西海岸にある古代ギリシャ都市ミトレスに生まれた。科学的思考の父の一人と見なされている彼は、自然現象の原因は神々の気まぐれではなく、自然そのものの中にあると考えた。より重要なのは、彼が科学思考の進め方である学識に抵抗するプロセスを手ほどきしたことだ。つまり習得知識に基づいて思考を組み立てることだけでなく、真理全体を疑問に付すこと。

現代の主要な物理学者の一人であるロヴェリは、本書のなかで科学的思考についての考察と、この思考の性質についてユニークな解釈を提案する。



Aux origines de la vie. Une nouvelle histoire de l'évolution

生命の起源 進化の新しい歴史

Abderrazak El Albani, Roberto Macchiarelli, Alain R. Meunier

■ 科学—地理

2016 ■ 256 p. ■ 978-2-1007-3791-8 ■ 22 €

本書は特殊分野の探求者達の冒険物語である。勇敢な地質学者らは古い地層の標本採取のためにアフリカに旅立ち、そこで時間を遡っていった驚くべき発見をした。それは20億年以上も前の細胞組織構造をもつ化石で、それまで当然とされていた地球上の生命出現の歴史を疑問に付した。アブデラザック・エル・アルバニの率いる研究者達は、どうやってこの発見に成功したのか？ なにゆえにその発見は革命的なのか？ 生命は地上にどのように現れたのか？ 本書は自らの起源との出会いに向かう時間旅行へと我々を招き、また科学がしばしば予期せぬ発見を機にどのように進歩していくのかを明かす。



De la vérité dans les sciences

科学における真理

Aurélien Barrau

■ 科学-哲学

2016 ■ 96 p. ■ 978-2-1007-4660-6 ■ 11,90 €

科学とは何だろう？科学が発見しうるのは唯一無二の「真理」か、それともただ一時的で部分的な真理なのか？最新の物理学理論に基づいて、また20世紀哲学を援用しつつ、オレリアン・バローは科学の定義および科学と「真理」との関係性を明らかにしようと試みる。そのために厳格だが分かりやすいアプローチを提案する。「この小著によって出される答えはわずかだし、問いかけの疑問もわずかだ。ただ思索に最適なある種の不快感の中に読者を置こうとしているだけだ。」



De Sun Tzu à Steve Jobs. Une histoire de la stratégie

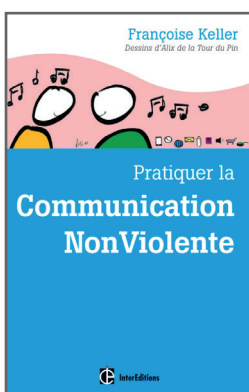
孫武からスティーブ・ジョブスまで 戦略の歴史

Bruno Jarrosson

■ 戦略-企業政策

2016 ■ 256 p. ■ 978-2-1007-4352-0 ■ 22 €

もとは軍事に始まったが、政治、それから経済やビジネスにヒントを与えている戦略史は人類一般の「歴史」と歩みを共にしてきた。著者は戦場 — 野外オプション — については孫武からクラウドゼヴィッツへと、経済世界 — ビジネスオプション — についてはミカエル・ポーターからスティーブ・ジョブスへと、我々をこの戦略史の衝撃的な大壁画の中を導いていく。統括された二十章は、戦略思考の避けて通れない原則と考える指標を再発見させてくれる。各章に生き生きとした導入や概略を解説するビデオが付き、戦略を語る本書はまことに斬新である。



Pratiquer la Communication NonViolente

Passeport pour un monde où l'on ose se parler en sachant comment le dire

非暴力的コミュニケーションの実践

話し方を知りながらも会話をする勇気のない社会に贈るパスポート

Françoise Keller

■ 伝達・コミュニケーション

2016 ■ 2ème édition ■ 256 p. ■ 978-2-7296-1611-3 ■ 19,90 €

臨床心理学者のマーシャル・ローゼンバーグによって完成された「非暴力的コミュニケーション」は、他人と自己との尊重ある関係を発展させるための効果的で簡単な枠組みを提案する。このコミュニケーションは他人への、また自己自身に対する隠され押し殺されたあらゆる暴力（黙る、自己表現する勇気がない、気持ちをごまかす）を追放してくれる。だが、お人好しになるとか、不自然になるとか、あるいは心理操作的になることを意味するのではない。意見や感じることを全てを自己表現するために、ありのままの自分になって自らの発言の影響を意識すること、また話し相手の存在を考慮することだ。本書はこの新しい人間関係の姿勢を身につけるための実践ガイドである。

1793 設立年

3800 目録の書名数

400 年間出版の書名数

EHESS出版の任務は、初出版の研究であれ立証された研究であれ、人文科学の革新的研究の出版によって、知的議論また一般議論を活気づけることにある。社会科学高等学校の実験主義的伝統に調和して、EHESS出版は社会科学の知的程度の高い企画を推進している。その創意性、科学的視点の高さ、反省性のゆえに、本社の書籍は現状の一時的動向に同調することのない思索の道具であり、現代社会の理解に必要な知識を生み出している。出版内容は、歴史学、美術史学、人類学、社会学、経済学、言語学と記号論、心理学、また地理学の分野で学問的生命に長期の影響を与えてきた研究からなる。



Faire des sciences sociales : critiquer, comparer, généraliser

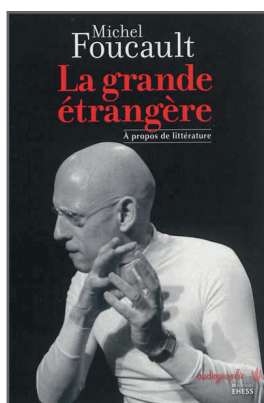
社会科学の実践 — 批判する、比較する、概括する
collectif

■ 共著社会科学の方法論

2012 ■ 1000 p. (vol 1 : 352 p. - Vol 2 : 320p. - Vol 3 : 328 p.)

■ 978-2-7132-2364-8 ■ 45 €

出版時に一大事として賞賛されたこの三部作は、社会科学分野の新たな研究活力を反映している。未来の研究と展望をひとつおき検討するこの本書は、新世代の社会科学研究者達の実践について、またその研究者同士を結びつけるもの - 批判する、比較する、概括するという知的実践の本質的契機 - について調査する。著者陣は、社会に支配的かつ慣用的見解に対して必要な距離をとるための多様な方法を提示する。



La grande étrangère

多くの未知の言葉

Michel Foucault

■ 哲学

2012 ■ 224 p. ■ 978-2-7132-2386-0 ■ 9,80 €

ミシェル・フーコーは要求の高い読者で、出版と同時にその文体が賞賛され世に認められた作家であるだけではない。哲学者は文学とは複雑で批判的、戦略的な関係をもつ。この選集は、ラジオ放送、講義、講演での彼の発言を初めて集めたものである。10年に満たない期間 - 1963年から1971年まで - の口頭発表の各々は、彼の著作と文体言語とに特殊な関わりを持つ。シェークスピア、ミゲル・デ・セルバンテス、ドゥニ・ディドロ、サド侯爵、アルトー、レイリスといった自らの文学蔵書をミッシェル・フーコーが明かすのは稀である。



L'expérience historiographique

歴史書編纂の経験

Antoine Lilti, Sabina Loriga, Jean-Frédéric Schaub,
Silvia Sebastiani

■ 歴史学—歴史理論

2016 ■ 315 p. ■ 978-2-7132-2532-1 ■ 27 €

修史に関する思索は、歴史意識の変化及び歴史知識と記述の問題点に向けられる。1980年代に始まる史料編纂に関する議論の増加によって、歴史学の揺るぎない科学的確信の総体は徐々に再検討されていった。歴史学者達の思索は、まず連続した社会史という確信から遠ざかり、特にミクロストリアの提案と対決した。また近年には、ヨーロッパ外の歴史と歴史編纂の役割が増し歴史学研究分野に変化をもたらした。さらに歴史記述行為とその叙述的可能性は新たに注目的となっている。



L'Allemagne au-dessus de tout

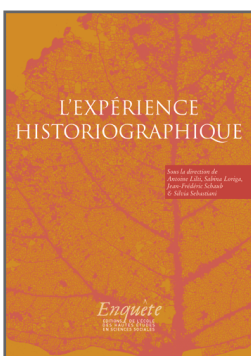
全てに超越したドイツ

Emile Durkheim et Bruno Karsenty

■ 社会学—哲学

2015 ■ 128 p. ■ 978-2-7132-2493-5 ■ 9 €

この1915年の著作で、エミール・デュルケームは第一次世界大戦の発端を考察している。患者を診察する医者のごとく、社会学者としてドイツの実例に取り組む彼の診断は容赦ない。ドイツが自国の意志に熱狂しているのは、理想主義を病的に実践しているからだ、と。時宜にかなったテキスト、また純粹プロパガンダとさえ見なされたこのテキストは、長い間フランス社会学者達から隠蔽されてきた。一世経後、ブリュノー・カーセンティはこの作品の再発見へと読者を招く。彼が元凶とされた国家主義的言動とは程遠い姿勢で、デュルケームはヨーロッパのいたるところで今日も依然として観察される近代性と自由主義への反発を説明している。



La sociologie comme elle s'écrit. De Bourdieu à Latour

書かれた通りの社会学 ブルディューからラトゥールまで

Jean-Louis Fabiani

■ 社会学

2015 ■ 256 p. ■ 978-2-7132-2490-4 ■ 14 €

25年前から社会科学に起こった最も重要な変化は何か？ 時代を画したフランスとアメリカの一連の著作を交差させ対決させながら、作家は現代社会学への入門書を作り上げる。この刺激的なクロソレクチャーの対象作家の中には、ピエール・ブルディュー、ジャン＝クロード・パスロン、アンドリュウ・アボット、ブリュノー・ラトゥール、リュック・ボルタンスキーがいる。社会学実践としての読書と批評欄の擁護及び説明であろうとするこの前代未聞の学問空間はまた、読者で社会学者ファビアニの人物をも浮き彫りにする。

1975 設立年

900 目録の書名数

030 年間出版の書名数

フラマリオングループはガリマールの親会社で、フランスで第三位の出版グループのマドリガルに100パーセント属している。編集提供はとりわけ豊富で、フラマリオン、フラマリオン・ケベック、ピグマリオン、オビエ、クリマ、GF、シャン、エトナント・クラシック、アルトー、オートロモン、ジェヴュ、リブリオ、フラマリオン・ジュネス、ペール・カスターならびにフルイド・グラシアルらの叢書に担われている。これらの叢書を通して、フラマリオングループは文学、芸術、文化遺産、実生活と生活術、科学と人文科学、図鑑、副教材、ポケット文庫、BD、青少年、そしてユーモアという分野を網羅する。



La renverse

逆向き

Olivier Adam

■ 小説

2016 ■ 272 p. ■ 978-2-0813-7595-6 ■ 19€

本屋を営む25歳のアントワン・ブリュネはジャン＝フランソワ・ラボルドの死をメディアで知る。元大臣でM市の市長であったアントワンの職歴は、10年前に彼の母親が共犯した性的乱用と強姦事件のために傷がついた。その死亡ニュースは、アントワンを数年前に忘れ逃が去ろうとした苦痛な時代に再び引き戻す。彼は自分の過去に直面せざるをえなくなり、自らの人生を奪い返す時が来たことを悟る。オリヴィエ・アダムは『大丈夫、心配するな』『冬を超す(2004年短編小説ゴンクール賞)』『何の逃げ場もない』『逆風』『心の静寂』『境界』そして『徒労』といった多数の作品の著者である。



La vie intense

強烈な生活

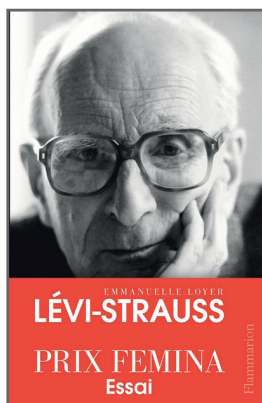
Tristan Garcia

■ 哲学

2016 ■ 160 p. ■ 978-2-7467-4315-1 ■ 14,90€

宣伝の歌い文句の強烈さは「繰り返しのフレーズ」にある。生活の理想という強度は、その電力が学問分野全体を通り抜けるまさにその時に位置する。

こうして強度は哲学の学術概念と人間の陳腐な理想とになった。だが強度の絶えざる探求は尽きる。その探求は増加するだけで習慣性にいきつく。「ボルテージが上がった」我々の社会は強烈さ探しという病にかかっている。幸福を叫ぶ文句を押しつけて、ガルシアはそれに「抵抗せよ」と呼びかける。作家であり哲学者であるトリストラン・ガルシアは、アラン・バディウに教えを受け、また『一番の取り分(2008)』『フェイバー(2013)』『形と物 - 物論(2011)』の著者でもある。



Lévi-Strauss

レヴィ＝ストロース

Emmanuelle Loyer

■ 伝記

2015 ■ 912 p. ■ 978-2-0812-5752-8 ■ 32€

レヴィ・ストロースの記録資料を獲得した唯一人の伝記作者で現代歴史学教授のエマニュエル・ロワイエは、学者の人生の重要な時代区分の解釈を一新する。1908年から1935年までの青年時代、1935年から1947年までのブラジル反乾燥地帯巡回とニューヨーク亡命の時代、1947年から1971年までのフランス帰国後時代で、彼に国際的知名度をもたらした古典となる『悲しき熱帯』を執筆した時期。最後が1971年から2009年までの前世紀との離別を主張した時代だが、それによって彼は現代性に鋭い視線を向けることに成功する。



Rhapsodie française

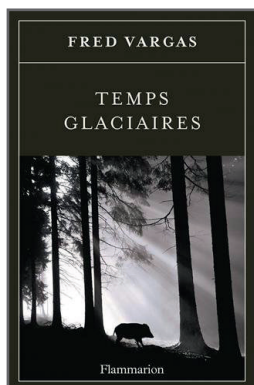
フランス狂詩曲

Antoine Laurain

■ 小説

2016 ■ 284 p. ■ 978-2-0813-6008-2 ■ 19€

アランの生活は三十三年後に届いた一通の手紙によって激変する。彼は当時、歌手のベランジェール、ドラマーのスタン、コントラバス奏者のヴォガン、そして作詞者のピエールで編成されたロックグループのギタリストだった。ピエールの兄JBMの資金援助でポリドール社にデモテープを送ったものの返事は無いままだった。アランは昔仲間の形跡を求めて旅立つ。スタンは現代アーティストになり、ヴォガンは右翼のリーダーに、JBMは天才的企業家になっていたが、ベランジェールはひそかに蒸発してしまっていた。この現代寓話で、アントワン・ロランは登場人物達の運命を絡み合わせる。



Temps glaciaires

氷河時代

Fred Vargas

■ 推理小説

2015 ■ 496 p. ■ 978-2-0813-6044-0 ■ 19,90€

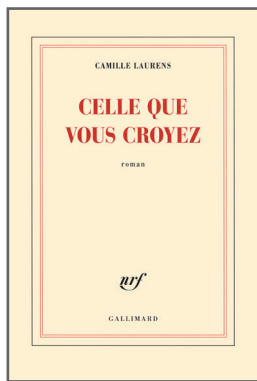
四年間の待望の末、警視官アダムスバーグとその忠臣ダングラードが再登場する。アダムスバーグはまたもや二つの策略に巻き込まれる。まず、それらは自殺に見せかけた殺人で、同じ徴 - 裁断機 - が屍体の近くに置かれている。同時に、アイスランド沖の幻想的なオーロラの見られる小島で、十年前の古い惨事が再び浮上する。警視官アダムスバーグが解決すべき新たな謎。登場人物達はあちこちに出没し、ページをめくるとに読者は息を飲む。推理小説文学の無視できぬ大物作家フレッド・ヴァルガスは数多くの小説を出版し、なかでも『裏返しの男』『死者を起こせ』『早く行って遅く戻れ』がある。

1876 設立年

10000 目録の書名数

380 年間出版の書名数

ガリマールは独立経営の文学出版社で、1911年にガストン・ガリマールによって設立され、今日は彼の孫であるアントワン・ガリマールに運営されている。作品目録には並ぶのは、多数の出版者や叢書に分類された文学とノンフィクションの4万冊の書名である。そこに名を連ねるのはアルベール・カミュ、ジャン＝ポール・サルトル、シモンヌ・ド・ボボワール、ミッシェル・フーコーなど世界文学の著名作家だが、また現代作家もいる。その中にはパトリック・モディアノ（2014年ノーベル文学賞）、JMG・ル・クレジオ（2008年ノーベル文学賞）、ミュリエル・バルベリ、ブアレム・サンサル、ダヴィド・フェンキノス、マイリス・ド・ケランガルの名が挙げられる。



Celle que vous croyez 知っていると思っていた彼女

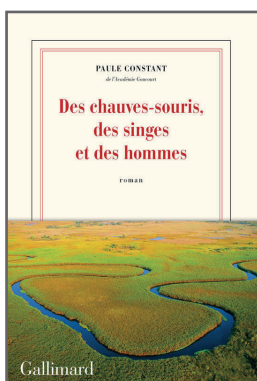
Camille Laurens

■ 小説

2016 ■ 192 p. ■ 978-2-0701-4387-0 ■ 17.50 €

教授をする離婚した48歳のクレール・ミレカムはFacebookに偽のプロフィール（クレール・アンチュネス、24歳の若い美人）をのせる。自分の愛人ジョーの友人であるクリスを介して、その移り気な若き愛人の個人情報入手するためだ。だがジョーへの想いはすぐにクリスへと傾き、彼女を破滅へと駆り立てるヴァーチャルな恋愛関係が始まる。『知っていると思っていた彼女』は、時間の経過や男達の視線に直面した女性の疑問について、また自分を公にさらすだけでなく別の自分をも作り上げることが可能にする社会的ネットワーク時代の恋愛について問いただす。それは自己の「虚構化」なのか、あるいは自分と他人への偽りなのか？

この小説は米国ではディ・アダーズ・プレス（ニューヨーク）からの出版が予定されている。



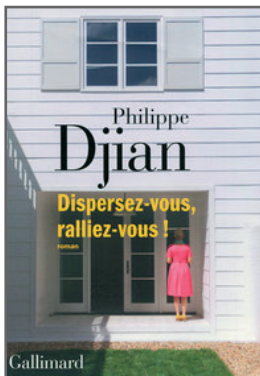
Des chauves-souris, des singes et des hommes コウモリと猿と人

Paule Constant

■ 小説

2016 ■ 176 p. ■ 978-2-0701-7836-0 ■ 17.50 €

アフリカのある村落で、少女オランプは一匹のコウモリと遊んでいる。若者達は森林からゴリラの屍体を誇らしく持ち帰ってくる。アグリッピンは、ある宗教使節団でワクチン接種を組織するためにベルギーから到着し、そこへ学術旅行中の若き民俗学者ヴィルジルが、風土病の再発を研究するために滞在する。奇妙な疫病がその村落を壊滅し始める。読者は徐々にそれがエボラ河岸で起こっている物語で、恐ろしい疫病の猛烈な伝播プロセスが開始したことを理解するのだが・・・ゴンクール賞受賞作家ポール・コンスタンによって見事に描かれた現代の悲痛な物語。



Dispersez-vous, ralliez-vous !
散り散りになって、また集まれ !

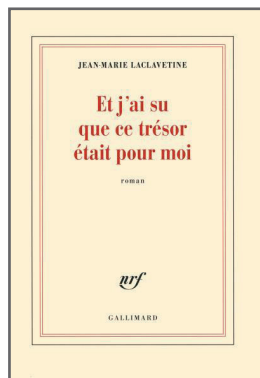
Philippe Djian

■ 小説

2016 ■ 208 p. ■ 978-2-0701-4320-7 ■ 18 €

全てはミリアムの思春期に始まる。非常に内気な彼女は父親と暮らし、男手一つで育てられる。彼らの隣人が亡くなると、その息子四十代のヤンが近所に乗り込んでくる。ヤンは若いミリアムの最初の愛人となりそして夫となる。少しずつミリアムは少女時代の心理的抑制から解放されていく。そして母親と兄が父親の遺産相続を奪い合うために彼女の生活に再び現れる時、ミリアムは極端に反発する・・・

「ボーダーライン」の解放の記録であるこの小説は、様々な出会いと偶然性にまかせた生、社会通念から外れた生を描きだす。



Et j'ai su que ce trésor était pour moi
そしてこの宝は僕のためだと知った

■ 小説

2016 ■ 288 p. ■ 978-2-0701-7800-1 ■ 19 €

「ジュリア、シーツの上で動くのを止めないか。病院、君の髪を未来の女神の髪型に結い上げる透明のチューブ、装置の奏でる音、廊下の床を歩くサンダルの響き、呼び出し合図、運搬台、光が踊る青白い壁、ベッドの鋼の光沢、それらは全部消え去るのだから。毎晩、僕は日中に君のために書いた物語を枕元に読みにくるよ。君が意識を取り戻すまで。びっくりする物語を期待していてくれないか。」

ジュリアを昏睡状態から目覚めさせようと、愛人のマルクは語りかける。語りから語りへと愛に満ちたまなざしの下で、滑稽と悲劇、緊張の高まりと感動、深刻さと笑いが混じり合ってゆく・・・ 文学はジュリアを目覚めさせる力があるだろうか？



L'amour et les forêts

愛と森林

Eric Reinhardt

■ 小説

2014 ■ 400 p. ■ 978-2-0704-6815-7 ■ 8.20 €

最初、ベネディクト・オンブルダンヌは、彼の最新作がいかに関自分の人生を変えたかを知らせようと、語り役のそのベストセラー作家に会おうとしたのだった。だがその人生をやがて彼に打ち明け始める。自分の夫の絶なき精神的嫌がらせへの反発から2年前に起きた情熱的な愛と反逆の一日について語りだし、作家を自らの苦悩へと引きずり込む。その一日とは彼女の生活で一番美しい日、だがまた破滅の始まりの日だった。自由への意志は墮落に抵抗するという女性解放の衝撃的な物語、『愛と森林』は魅惑的な一冊。この見事な小説はすでに5カ国に読者がいる。

1911 設立年

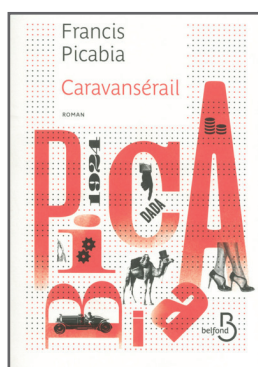
43000 目録の書名数

1600 年間出版の書名数

PLACE DES ÉDITEURS

プラス・デ・ゼティターは、出版者ベルフォン、プレス・ドウ・ラ・シテ、ソラー、スラローム、オン・ヴォワイヤージュ・エディション、オムニビュス、オール・コレクション、アクロポール、エマ、ラング・オ・シャ、シュマン・ヴェール、ル・プレ・オ・クレールの12社を集めた出版グループである。プラス・デ・ゼティターはまた、フィクションやノンフィクション作品、旅行ガイド書、若者向け書物や実践書も出版している。

文学の分野においては典拠とされ、多数のベストセラー作家を出版する。その中には、女性文学のリーダーであるフランソワーズ・ブルダンや推理作家のミッシェル・ブシ（31カ国語に翻訳）といったフランス人作家のみならず、日本人作家の村上春樹、アメリカ人のドゥグラス・ケネディやハーラン・コーベン、またスウェーデン人のヨナス・ヨナソンという外国人作家もいる。



Caravansérail キャラバンサライ

Francis Picabia

■ 小説

2013 (réédition / 再版) ■ 192 p. ■ 978-2-7144-5659-5 ■ 18 €

フランシス・ピカビア作の唯一の小説『キャラヴァンサライ』は1924年、第一回のシュールレアリズム宣言の年に執筆された。彼の手に負えない無遠慮さはブルトンの教義的厳格さと対照をなしている。

自伝的著作『キャラヴァンサライ』は、前衛の渦に巻き込まれた時代のエスプリを辛辣に描いた一連の絵画のようだ。そこにはデュシャン、ピカソ、ブルトン、エリュアー、デスノス、ヴィトラック、アラゴン、エルンスト、サンドラー、コクトー、また他の大勢が登場する。

ベルフォール社から1974年に死後出版された『キャラヴァンサライ』は1980年代から絶版となっていた。この芸術的、知的、文化遺産継承的草稿は、1920年代についての嬉々としたユニークな歴史的見地を与えてくれる。

すでにスペイン、イタリア、ロシア、トルコで販売された。



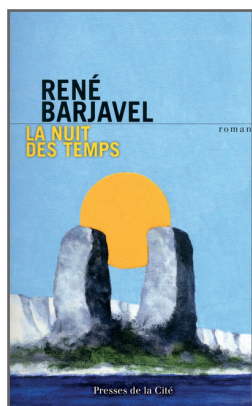
De Force かずくで

Karine Giébel

■ 心理ミステリー小説

2016 ■ 528 p. ■ 978-2-7144-5963-3 ■ 19,50 €

ある夏の夜、有名な外科医の娘、二十歳の若いモードは散歩中に突然襲われる。ジョギングをしていたルカがそこへ通りかかり、暴行者を追い払ってモードを寸前のところで救う。数日後、モードの父親は不安を掻き立てる脅しのメッセージを受け取って、自分たちの身の安全の保証をするためにルカの助けを求める。ルカの職業はボディガードだ。誰が彼を恨んでいるのか？なぜその未知の男は娘を襲いそしてまた繰り返すと脅迫するのか？すぐさまルカはこの家庭全員のそれぞれが何か隠しごとをしているのを見抜く。カリン・ジエベルの小説は9カ国語に翻訳されている。



La Nuit des temps

太古の闇

René Barjavel

■ 小説

2011 (réédition / 再版) ■ 312 p. ■ 978-2-2580-9232-7 ■ 21 €

「南極大陸の凍ったステップで探検隊員達は氷塊の円筒形標本の採取に忙しい。氷盤の厚みは千メートル以上あり、最深の層は九十万年前にできたものだ。

その時、信じられない事が起こる。測深器が地表面からの信号を記録している。氷塊の下に生命があるのか？世界各地からやって来た学者達、技術者達は驚くべき発見をしていく・・・

仏文学の優れた古典であるこの一冊は世界中で翻訳され、百万部以上売られた。



Le temps est assassin

時間は人殺し

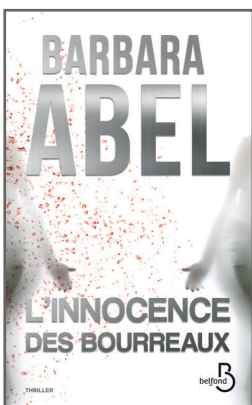
Michel Bussi

■ 推理小説

2016 ■ 544 p. ■ 978-2-2581-3670-0 ■ 21,50 €

「悲惨な自動車事故、破壊された人生、家族の秘密・・・ミッシェル・ブシは息をのむ推理小説にまたもや我々を引き込む！」クロチルドは夫と思春期の娘と共にコルシカ島で休暇を過ごす。二十年前に彼女の両親と兄の命を奪った恐ろしい自動車事故以来、この島に戻って来たのは初めてだ。彼女は事故に居合わせたが奇跡的に死を免れた。

クロチルドの母親は事故で本当に死亡したわけではないと推測させるような奇妙な徴が現れる。ではクロチルドは全ての真実を知らなかったというのだろうか？ミッシェル・ブシはフランスで売り上げ三位の作家。彼のベストセラー『彼女が乗っていない飛行機』は三十一カ国後に翻訳され、日本でSRの会賞を受賞した。



L'Innocence des bourreaux

死刑執行人たちの無実

Barbara Abel

■ 心理ミステリー小説

2015 ■ 320 p. ■ 978-2-7144-6029-5 ■ 18,50 €

数人の客が小スーパーマーケットで買い物をしている。全てが静かだが、ひとりの若い麻薬中毒患者が武器を持って突然店に入ってくる。全員が人質にとられる。状況はすぐに悪化するが、人質達は彼の武器を床に落とさせることに成功する。十五歳のテオがその武器を拾う。青年は店から逃げようとする麻薬中毒患者の背中を銃で撃つ。殺人を複数の者に目撃され、彼はそれが自己防衛であるとはっきり主張できない。テオの母親のアリーヌが武器を取ってこの状況を支配する。目撃者の誰かが、息子がしたばかりのことを警察に告げるなんて問題外だからだ。彼らを黙らせるためなら母親は何でもするだろう・・・

ロシアでは映像化へのオプション付きで販売。

1999 設立年
4600 目録の書名数
800 年間出版の書名数

一般書籍出版会社、ル・スイユはあらゆる分野 — 歴史、社会、政治、経済、科学、学術書、知恵、討論 — における人文科学とフィクションの書籍出版に携わる。

当社はまた実践書、豪華本、若者向け書物やポケット判も出版している。系列出版社はロリヴィエ、ポワン、ドン・キショット、エディション・デュ・スソルである。



Histoire des sciences et des savoirs [3 tomes]

科学と学問の歴史 (三巻)

Tome 1 : De la renaissance aux Lumières

第一巻 ルネッサンスから啓蒙時代まで

Tome 2 : Modernité et globalisation

第二巻 近代性とグローバル化

Tome 3 : Le siècle des technosciences

第三巻 科学技術の時代

監修 Dominique PESTRE

■ 科学

2015 ■ 516 p. par tome / 一巻につき

Tome 1/第一巻: 978-2-0210-7676-9

Tome 2/第二巻: 978-2-0210-7677-6

Tome 3/第三巻: 978-2-0210-7678-3 ■ 38 € par tome/一巻につき

科学諸分野の総合史の集大成で、29名の外国研究者(アメリカ、イギリス、ドイツ、スウェーデン、イタリア、中国、インドなど)を含む60名以上の第一線の研究者達の貢献を集成した国際史。3巻からなる本書は時代順でテーマ別に構成されている。まず各時代に科学とは何であったか、その時代の社会と文化にいかに関わっていたかを浮き彫りにする。そして科学の主要分野と先導的分野の発展を掘り下げて概観し、さらに科学の変遷をグローバル史と政治問題点の文脈のなかで捉え直す。



L'art de revenir à la vie

現実に戻ってくる術

Martin PAGE

■ 小説

2016 ■ 176 p. ■ 978-2-0211-7496-0 ■ 16 €

語り手のマルタンは40歳になったばかり。自分の書いた小説の一つを映画化したいという女性プロデューサーに会うためにパリに赴く。アーティストである女友達が貸してくれたアパートに泊まるが、彼女の最新作は『タイムマシン』という変わった題名の金属製の柵だ。マルタンはその中に滑り込んで眠ってしまう。こうして29年前に遡り、青年時代を過ごした町に戻って来て12歳の自分の分身と対面する。翌日、彼は小説の映画化について話を進めるためにプロデューサーに再会する。だがすぐに全てが狂ってくる。映画の企画は取り消しになり、毎晩マルタンと彼の若い分身は話し合いを続けるが、関係は複雑化する。というのは、彼の分身は現実生活でも過去の生活でもマルタンを苦境に陥らせるほどの矛盾な精神の持ち主なのだ。



Le procès des droits de l'homme

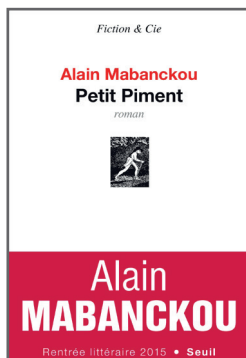
人権訴訟

Justine LACROIX, Jean-Yves PRANCHÈRE

■ 政治科学

2016 ■ 325 p. ■ 978-2-0211-8100-5 ■ 22 €

自らの権利だけに取り憑かれた個人のナルシズムの告発、絶えざる権利主張の悪循環に対する不安、そして家庭・社会・国家共同体の必要性の喚起を呼び起こす『人権宗教』は、ますます公に異議を醸し出している。これらの批判のいくつかは民主主義への反感に端を発してはいるが、またマルセル・ゴシェからレジス・ドゥブレに到る共和主義や民主主義主張の作家達によっても先導されている。それぞれの論議は1789年以来、人権宣言批判が選んだ異なる人物達をとりあげる。本書は現代の困惑の正体を明らかにしてくれる聡明な地図作成法を示している。



Petit Piment

プチ・ピマン

Alain Mabanckou

■ 小説

2015 ■ 288 p. ■ 978-2-0211-2509-2 ■ 18,50 €

この小説は都市ポワント・ノールとその近郊が舞台となる。プチ・ピマンは、デュウドネ・ヌグルムマコの不当な腐敗権力で運営されるカトリック系私立学校で勉強する幼い孤児だ。まもなく社会派革命が起こって権力構造が変わる。プチ・ピマンはその機会に逃げ出してしまう。少年は売春宿ママン・フィアット500と10人の女達のもとに隠れ場を見いだす。だがポワント・ノールの市長は売春を根絶しようと精力的介入を決定する。

コンゴ生まれのアラン・マバンクは『ヤマアラシの回想（2006年スイコ社出版-ルノド-賞受賞）』を出版。フランス学士院の芸術創作講座の一年任期正教授（2015-2016年度）である。



Pour une histoire des possibles

在り得た歴史のために

Quentin DELUERMOZ et Pierre SINGARAVELOU

■ 歴史

2016 ■ 416 p. ■ 978-2-0210-3482-0 ■ 24 €

過去にあり得た世界に関するフランス歴史学者達の見解は揺るぎないように見える。そうした逸脱は紛れもない事実でできた歴史を分野外へと押しやる。この逸脱を愉快的フィクションとするのは無意味であろう。原則に縛られずまた否認もせずに、本書の著者達は社会科学と歴史学の研究において、この古い問題が地味で時には恥ずべき、またよく暗黙の存在であることを暴きながら新たな解釈をする。補完的論証は一般的ではあるが、最も主観的な直感と最も不条理な推測ならびに最も思慮深い仮説を一体化させる。その論証が適切とされる条件と学問への貢献を明確にすることが本書の焦点となる。その理由は、一見して陳腐な論証の裏にひそんでいる重要な諸問題だ。つまり、まず歴史とフィクションとの関係、因果関係の嫌疑、決定論、また偶然性という問題、さらにまた歴史に置ける真実という問題である。

1935 設立年
19500 目録の書名数
600 年間出版の書名数



**INSTITUT
FRANÇAIS**
アンスティチュ・フランセ日本
JAPON

Institut français du Japon

アンスティチュ・フランセ日本

L'Institut français est un organisme officiel du gouvernement français, en charge de l'action culturelle extérieure de la France. Son action s'étend dans 96 pays.

Au Japon, l'IFJ (Institut français du Japon) œuvre à la diffusion de la langue et de la culture françaises en s'appuyant sur un réseau de quatre antennes établies dans cinq villes : Tokyo, Yokohama, Kansai (Kyoto et Osaka) et Kyushu (Fukuoka).

Il travaille en relation avec les quatre Alliances françaises du Japon (Sapporo, Sendai, Nagoya, Tokushima).

Depuis 2014, l'Institut français dispose aussi d'une résidence d'artistes, la Villa Kujoyama de Kyoto. Il forme ainsi le plus grand réseau culturel français en Asie.

L'IFJ soutient activement la promotion au Japon du livre français et francophone. Il organise un festival annuel de littérature et de bande dessinée, Feuilles d'automne. Ses programmes d'aide à la publication encouragent la traduction en japonais d'ouvrages de littérature et de bande dessinée. Pour plus d'informations, retrouvez l'IFJ sur son site ;

www.institutfrancais.jp

アンスティチュ・フランセとは、世界96カ国に広がるフランス政府の公式文化機関です。

日本では、東京、横浜、関西（大阪／京都）、九州（福岡）の4支部（5都市）を拠点にフランス語講座を開講し、フランス発の文化、思想、学問を発信しています。2014年よりアーティスト・イン・レジデンスのヴィラ九条山もアンスティチュ・フランセ日本の支部のひとつとなり、日本に4つあるフランス政府公認機関のアリアンス・フランセーズ（札幌、仙台、名古屋、徳島）も併せると、アジアー大きなフランス文化機関ネットワークになります。

書籍に関する活動では、フランス語圏の文学やBDを紹介するフェスティバル「読書の秋」を開催するほか、日本国内におけるフランス作品の出版事業に対する助成も行っています。詳細は、HPをご覧ください。

www.institutfrancais.jp



Bureau International de l'Édition Française Promouvoir l'édition française dans le monde

世界にフランス出版界を推進する

Depuis plus de 140 ans, le BIEF est l'outil de promotion de l'édition française à l'étranger. Organisme professionnel, il regroupe près de 280 éditeurs adhérents. Bénéficiant de l'appui du Centre national du livre le BIEF travaille en liaison avec le ministère français des Affaires étrangères, les postes diplomatiques ainsi que l'Institut Français et l'Organisation internationale de la francophonie. Chaque année, son programme s'articule autour de plusieurs types d'actions :

- La participation à de grandes foires internationales du livre (Bologne, Francfort, Londres) réservées aux professionnels ainsi que la présence à de nombreuses autres foires dans le monde pour le public,
 - La publication de catalogues – généralement thématiques – en version bilingue présentant les titres destinés à rencontrer un marché à l'international,
 - La réalisation d'études sur différents marchés nationaux du livre fournissant informations et données aux éditeurs français qui souhaitent se développer à l'étranger,
 - L'organisation, à l'étranger comme en France, de rencontres et de séminaires professionnels d'éditeurs, voire de libraires.
- Pour en savoir plus : www.bief.org

BIEFはフランスの出版社の海外活動を140年以上にわたって応援してきました。約280社の出版社が加盟する専門機関です。国立書籍センター（CNL）の支援のもとに、BIEFはフランス外務省、外交官、フランス学士院ならびに国際フランス語圏機構との連携で活動しています。年間プログラムは以下の活動を中心としています。

- 出版専門家向けの大規模な国際書籍フェア（ボローニャ、フランクフルト、ロンドン）、および他の多くの世界中で催される一般者向け書籍フェアへの参加
 - 国際市に適した二カ国語の書籍目録 – 一般的にテーマ別 – の出版
 - 海外への市場拡張をめざす仏出版社に情報とデータを提供するための様々な国内書籍フェアに関する調査
 - フランス内外における、出版社また書籍商のための出版専門家会議やセミナーの企画
- 詳しい内容は次のサイトをご覧ください：www.bief.org

INDEX

文学

Roman | 小説 2-3-6-7-18-19-20-21-22-23-24-25

Polar | 推理小説 19-23

Thriller | ミステリー小説 3-22-23

社会・人文科学

Anthropologie | 人類学 13

Biographie | 伝記 19

Communication | 伝達・コミュニケーション 15

Essais - Documents | エッセイ - ドキュメント 2-8

Etudes | 研究書 9

Géographie | 地理 5

Histoire | 歴史 4-9-10-12-17-25

Biologie - Science de la terre | 生物学 - 地球科学 11

Philosophie | 哲学 8-11-12-13-16-18

Sciences | 科学 14-24

Sciences - Géologie | 科学 - 地理 14

Sciences - Philosophie | 科学 - 哲学 15

Sciences Humaines et Sociales | 社会人文科学 3-16

Sciences politiques | ミステリー小説 19-25

Société | 社会 5

Sociologie | 社会学 11-13-17

Sociologie - Philosophie | 社会学 - 哲学 17

Sociologie - Ethnologie - Anthropologie | 社会学 - 民族学 - 人類学 10

Stratégie - Politique de l'entreprise | 戦略 - 企業政策 15

Théâtre - Mime - Danse - Cinéma | 演劇 - マイム - ダンス - 映画 4

Traduction

翻訳

Motoko Nakamura

中村基子

Création graphique

et mise en pages

グラフィクス製作・レイアウト

Christine Karavias

Impression

印刷

BIEF

ALBIN MICHEL

ARMAND COLIN

AU DIABLE VAUVERT

LES BELLES LETTRES

CNRS ÉDITIONS

LA DÉCOUVERTE

DUNOD ÉDITEUR

EHESS

FLAMMARION

GALLIMARD

PLACE DES ÉDITEURS

LE SEUIL



www.bief.org